

(様式3)

【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	海士町立海士中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合的な学習 の時間	「自分たちの力で、 地域を盛り上げよう」	学習を通じた、 ふるさとへの愛着や誇りの醸成
ねらい	○地域の課題解決に向けて、生徒が地区住民とかかわりながら自分たちなりの課題意識を持ち、地区住民との協働活動によって課題解決に向かっていく。		
<p>1 取組の概要</p> <p>町内にある3つの地区（地区は町全体で14ある）と連携し、各地区住民の「やってみたい」を生かした課題解決的な学習を展開。自分たちにできることや得意なことを生かして地域を元気にする活動を企画・実践した。授業の展開にあたっては、各地区の区長、公民館長、子ども会の会長、教育委員会の地区担当スタッフなどに携わっていただきながら取り組んだ。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) 生徒なりの着眼点や発想で地域づくりにつながる課題設定を行うと、非常に時間がかかり、設定したものが自分よがりの内容になってしまいがちである。そこで地区住民が抱いている「やってみたい」という課題意識を生かしていこうと仕掛けることで地区への貢献意欲の高まりを期待した。 (学力育成の視点から) 地区住民と共に活動していくためには自分達自身の当事者意識を高めていく主体性と「地区住民に寄り添いながら」「地区住民の知恵や力を借りながら」という協働性が必要となる。日常あまりかかわることがない他者と協働することによって総合的な学習の時間ならではの学習効果を期待した。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) ○各地区の課題解決に自分達が携わり、地区住民とかかわりながら取り組んでいくことによる貢献意識や地区への愛着が生まれた。中学生目線でのアイデアや行動が地区に受け入れられ、生かされたことによって自己肯定感が芽生えた。 (学力育成の視点から) ○区長、地区公民館長をはじめとする地区住民にヒアリングを重ねたり協働活動を行ったりしてきたことによってコミュニケーション能力といった人間関係を形成していく力を醸成していくことができた。また、自分達で企画・実行していこうとする課題解決に向かう思考力・行動力を高めることができた。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>中学校2年生としての課題設定に無理がなく、適度な探究活動のサイクルを回すことができたが、地域住民との協働の在り方については吟味が必要である。それは2年生に限らず、それぞれの学年における学力向上の観点で今後検討しながら行っていきたい。 また、かかわる地域が固定的にならないように工夫したい。今後も中央公民館と連携しながら、より広く地域づくりにもつながるような実践を期待したい。</p>			



*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。
(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)